

第 25 回

ナショナルバイオリソースプロジェクト「ゼブラフィッシュ」

運営委員会議事録

日時：2025年9月1日（月）10:00～12:00

会場：青山学院大学17号館4階会議室およびオンライン

形式：ハイブリッド(ZOOM)

実施機関：岡本仁(理化学研究所CBS・代表機関課題管理者)、浅川和秀(国立遺伝学研究所・分担機関課題管理者)、東島眞一(基礎生物学研究所・分担機関課題管理者)、吉原良浩(理化学研究所CBS)、久保郁(理化学研究所CBS)

運営委員：平田普三(青山学院大学・委員長)、石谷太(大阪大学)、伊藤素行(千葉大学)、川原敦雄(山梨大学)、菊地和(国立循環器病研究センター)、津田佐知子(埼玉大学)、西谷直之(岩手医科大学)、日比正彦(名古屋大学)、松井秀彰(新潟大学)

NBRP：鈴木智広(国立遺伝学研究所・LSI事務局)、川本祥子(国立遺伝学研究所・NBRP情報センター)、高祖歩美(国立遺伝学研究所・NBRP広報室)、小幡裕一(理化学研究所BRC・NBRPプログラムオフィサー)、石岡亜季子(理化学研究所CBS)

文部科学省：西山隆宏、松井大地、藤森大輔、角田薫(研究振興局ライフサイエンス課)

オブザーバー：松田勝(宇都宮大学)

(敬称略)

報告および審議

1. 会議趣旨説明

委員長より会議趣旨の説明があった。

2. 文部科学省研究振興局ライフサイエンス課よりご挨拶

藤森様よりご挨拶があった。

3. IZFC2024 報告

2024年8月に京都で開催されたゼブラフィッシュの国際大会 18th International Zebrafish Conference (IZFC2024)について、岡本(IZFC2024 大会長)から、NBRP ゼブラフィッシュが展示ブースを出して事業を国内外に向けて宣伝したことを含め、完了報告があった。

4. 事業報告

各実施機関の課題管理者から、下記について報告があった。資料は事前にメールで委員に配布された。

(1) 事業規模の概略（成魚水槽数、稚魚水槽数、ライブで維持する系統の数、補助員の勤務形態と人数、実費徴収の方法、国内発送の方法、海外発送の方法）

(2) 2024年度の会計報告

(3) 2025 年度 6 月までの会計報告

(4) 2024 年度の事業実績（収集した系統の名称と数および累計，凍結保存した系統の名称と数および累計と保存場所，分与した系統の名称・発送先と数および累計）

(5) 2025 年度 6 月までの事業実績

(6) データベースの現状と更新状況

(7) その他

実施機関の会計および事業内容について承認された。

特記事項：

・理化学研究所のゼブラフィッシュ飼育設備が老朽化し、設備更新をする必要があり、設備更新費用の申請など、対策を検討していることが報告された。

・国立遺伝学研究所では 2024 年度末に川上浩一先生(分担機関課題管理者)と酒井則良先生が退官し、2025 年度から浅川が分担機関課題管理者を務めているが、川上先生から浅川へのゼブラフィッシュ系統とデータベースの引継ぎが無事に完了したことが報告された。

・上記のデータベースは 2024 年度基盤技術整備プログラムにより改修されており、その仕様や掲載系統数、今後の運用方針が報告された。

・酒井先生が開発された近交系 2 系統(M-AB, IM)も国立遺伝学研究所で引継ぎされており、現在の維持状況が報告された。昨年度の議論から変更なく、M-AB を維持して提供サービスを継続すること、IM についても維持を継続するが、近交弱勢により困難な場合は維持を中断する可能性があることが確認された。

・運営委員から、提供先の多様性についての質問があり、毎年新規ユーザーがあり、民間企業への提供もあることが情報共有された。

5. 実施機関の体制

各機関の体制を確認し、来年度も現状体制を継続することが承認された。理化学研究所の体制について、第 6 期は代表機関課題管理者が交代して世代交代する展望が報告された。

特記事項：

・第 6 期の申請内容については、各機関の提供数等に基づき、来年度議論することとした。

・ライフサイエンス課から、精子凍結による系統保存を図れないか、ライブ維持と凍結精子保存の線引きをどう規定するのか、との質問があり、すでに精子凍結による系統保存を進めており、線引きの明確化を今後検討する旨の回答があった。

6. ダニオネラ

透明魚ダニオネラのバイオリソースとしての需要拡大に対応すべく、第 6 期からゼブラフィッシュの近縁種という位置付けでダニオネラ系統を収集・提供する可能性を議論した。

特記事項：

ライフサイエンス課から、ダニオネラを NBRP ゼブラフィッシュの中で取り扱うことを検討するなら、ダニオネラ事業の予算見積を検討すべきとの提案があった。

7. 魚病対策

理化学研究所で毎年行っている微生物モニタリングの検査結果が共有され、現状で特定病原微生物が発生していないことが確認された。第6期以降は運営委員に魚病の専門家を加えるなどして魚病対策のさらなる強化を図ることが提案された。

8. 海外のリソース事業の動向と輸送問題

海外への輸送が困難な例と、新たな提供方法として精子の常温輸送の可能性が紹介された。

9. その他

(1) 実験動物としての魚類の取り扱い

実験動物としての魚類の取り扱いについて現在の法律を確認した。

(2) 小型魚類研究会コミュニティ・ミーティング

ゼブラフィッシュのユーザーが一堂に会する第31回小型魚類研究会のコミュニティ・ミーティングで、NBRP事業の紹介(岡本)、遺伝研における引継ぎの完了報告(浅川)、ユーザーからの意見聴取(平田)を行うことを確認した。

→ 2025年9月2日にコミュニティ・ミーティングが開催され、上記の通り実施された。